

最近の経済動向

令和3年1月号

(北海道の景気動向～令和2年11月の経済指標を中心として)

低迷しているものの、一部に明るい動きがみられる

■生産動向

- P1 生産活動(鉱工業生産指数)
低い水準で推移しているものの、一部に明るい動きがみられる

■需要動向(消費・投資)

- P2 個人消費(百貨店・スーパー・コンビニエンスストア・専門量販店販売額、
インターネットを利用した一世帯支出額、新車登録台数)
一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが広がっている
- P6 住宅建設(新設住宅着工戸数)
下げ止まりの兆しがみられる
- P7 公共工事(公共工事請負金額)
増加している
- P8 観光(来道者数、来道外国人数)
弱い動きが広がっている
- P10 輸出入(輸出額、輸入額)
輸出額、輸入額とも前年を下回った

■企業倒産

- P11 企業倒産(倒産件数、負債総額)
倒産件数、負債総額ともに減少した

■雇用動向

- P13 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、月間有効求人倍率、完全失業率)
さらに弱い動きが広がっている

■物価動向

- P15 物価(消費者物価指数)
消費者物価指数は前年を下回った

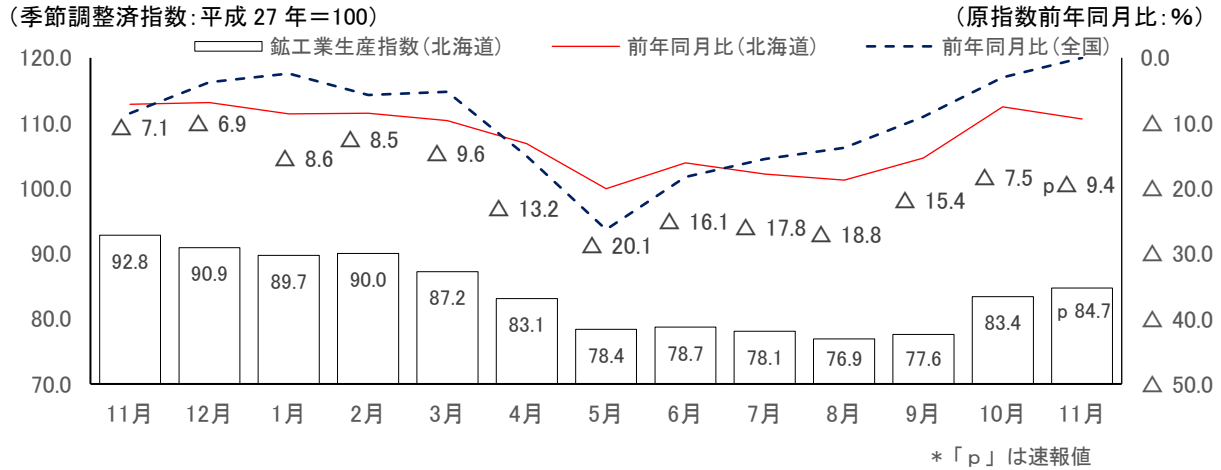
■企業の業況感

- P16 企業経営者意識調査
前期から上昇している
- P17 企業のみなさまから伺いました

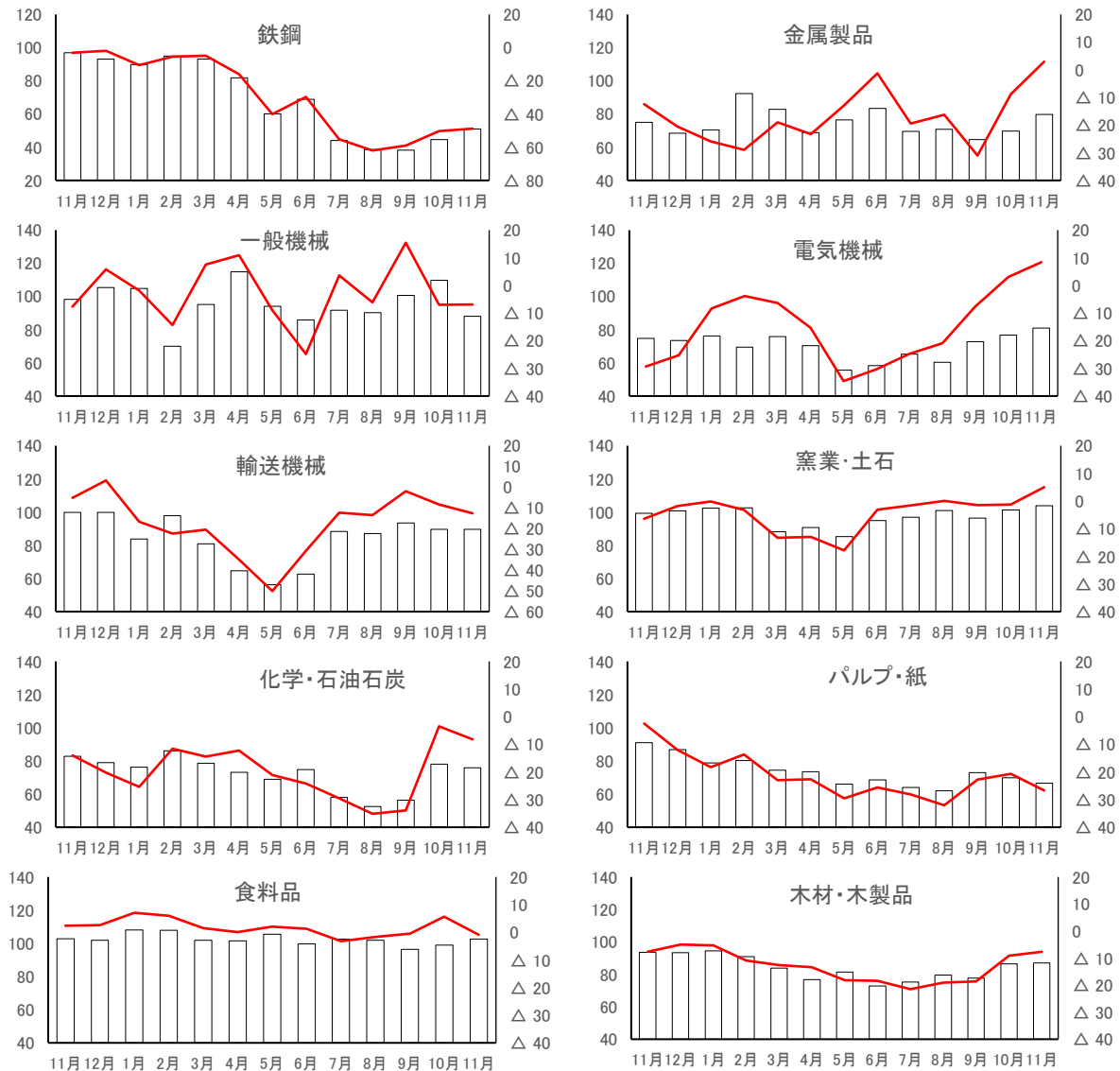
生産活動～低い水準で推移しているものの、一部に明るい動きがみられる

鉱工業生産指数（11月）

鉱工業生産指数（季節調整済）は、84.7で前月比+1.6%（3か月連続で上昇）であり、原指数による前年同月比は、△9.4%（14か月連続の低下）となった。業種別にみると、鉄鋼業など6業種が前月比上昇、パルプ・紙・紙加工品工業など7業種が前月比低下となった。



■主な業種の季節調整済指数(右軸:原指数前年同月比%)

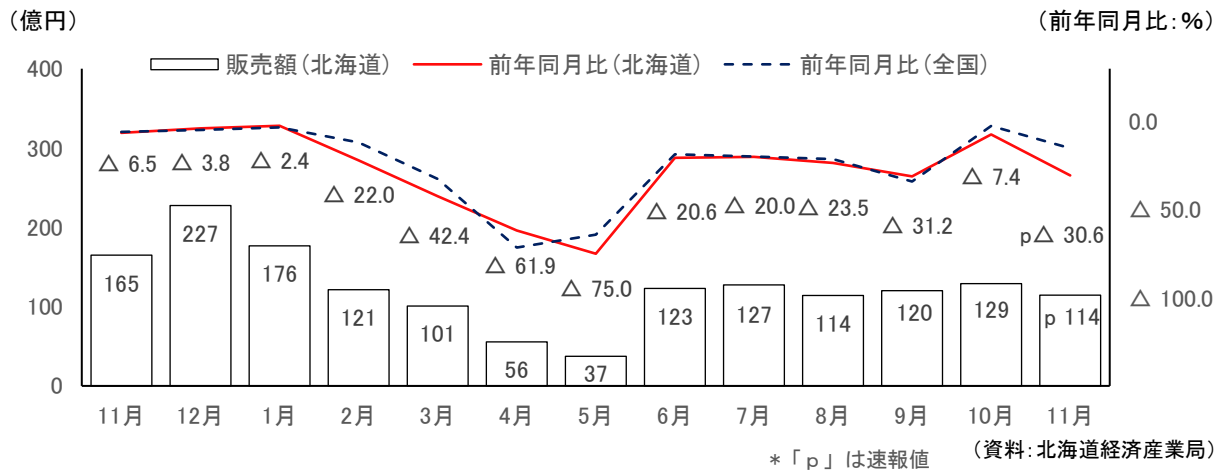


(資料:北海道経済産業局)

■個人消費～一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが広がっている

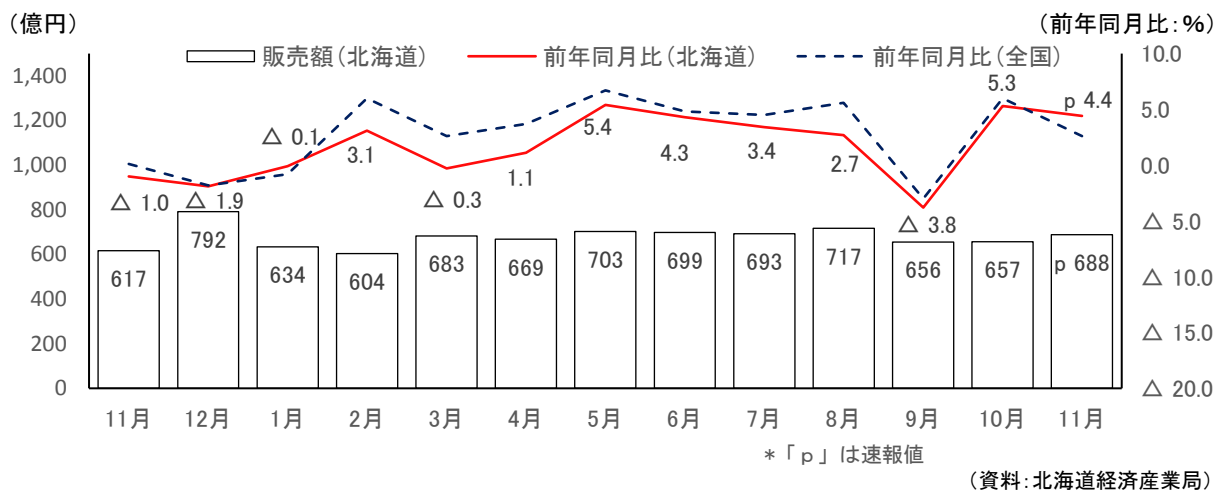
百貨店販売額（11月）

百貨店販売額は、114億円で前年同月比30.6%の減少となり、14か月連続で前年を下回った。



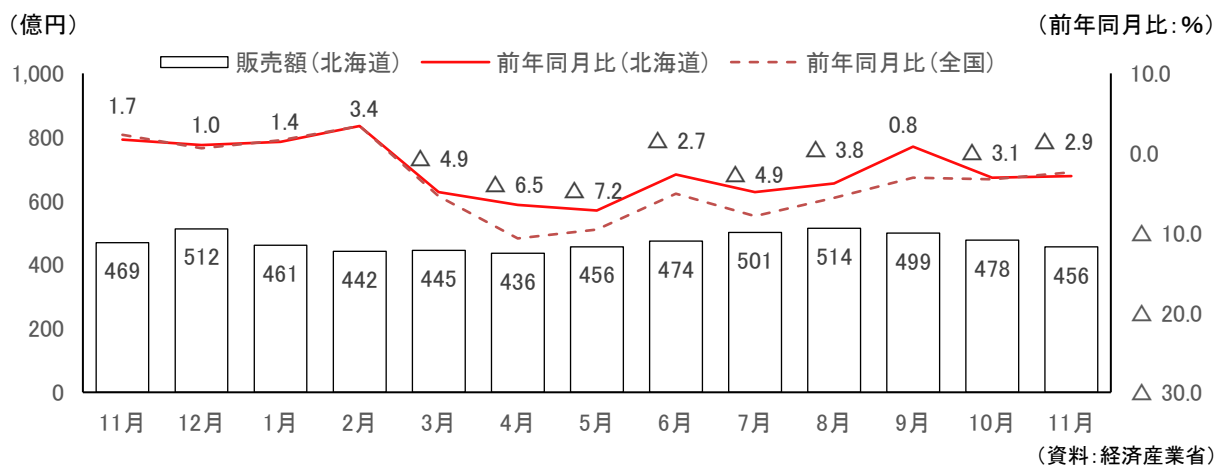
スーパー販売額（11月）

スーパー販売額は、688億円で前年同月比4.4%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。



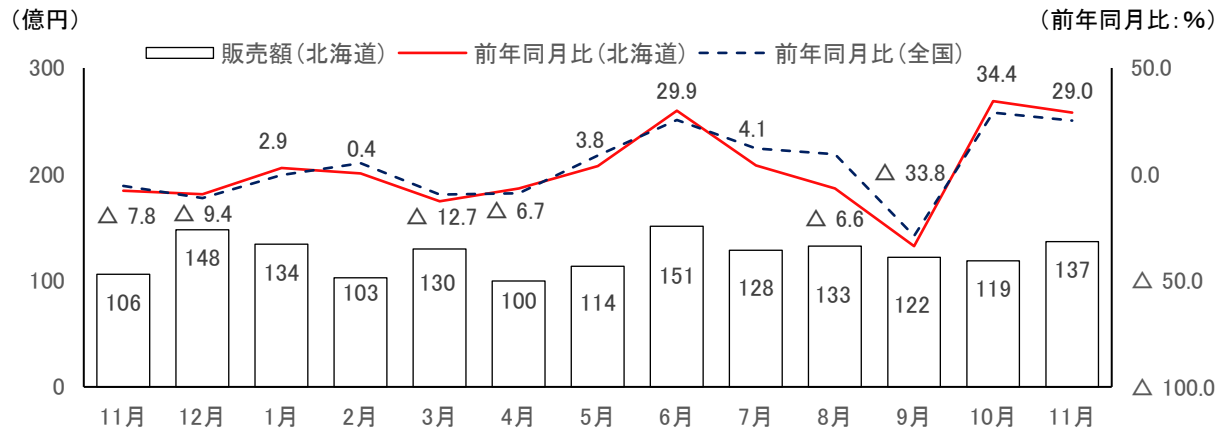
コンビニエンスストア販売額（11月）

コンビニエンスストア販売額は、456億円で前年同月比2.9%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。



家電大型専門店販売額（11月）

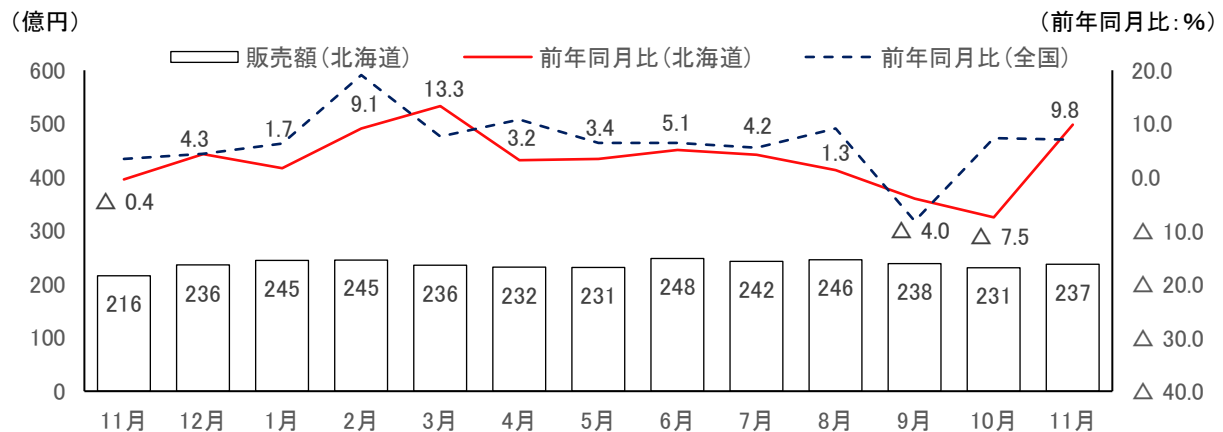
家電大型専門店販売額は、137億円で前年同月比29.0%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。



(資料:経済産業省)

ドラッグストア販売額（11月）

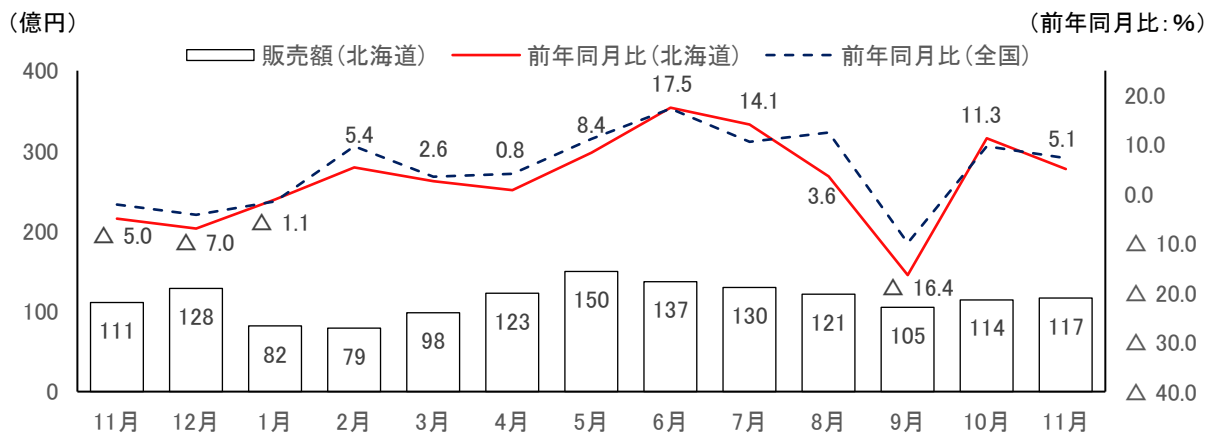
ドラッグストア販売額は、237億円で前年同月比9.8%の増加となり、3か月ぶりに前年を上回った。



(資料:経済産業省)

ホームセンター販売額（11月）

ホームセンター販売額は、117億円で前年同月比5.1%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。

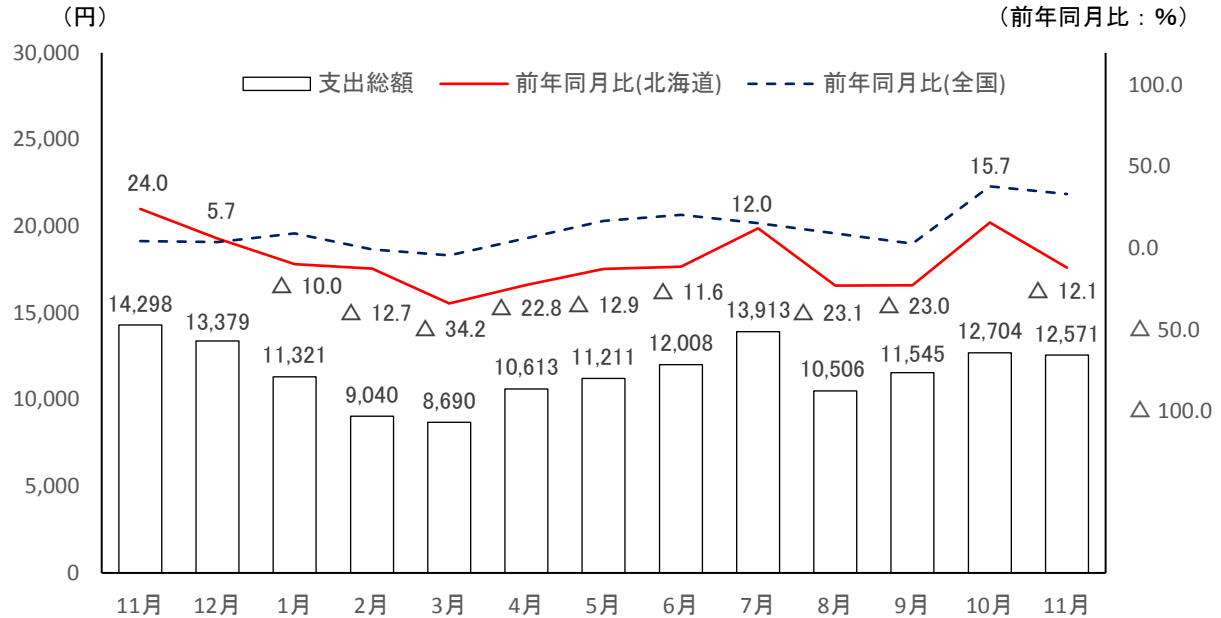


(資料:経済産業省)

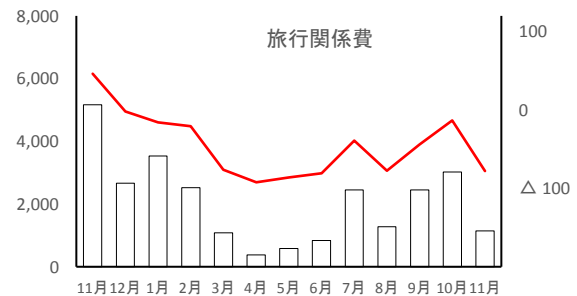
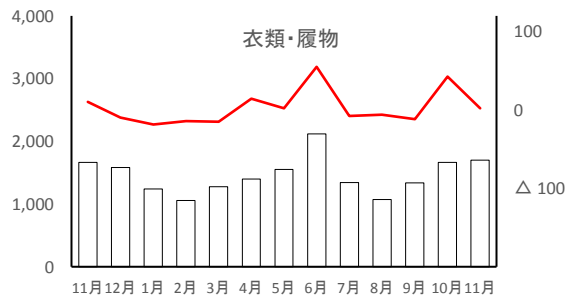
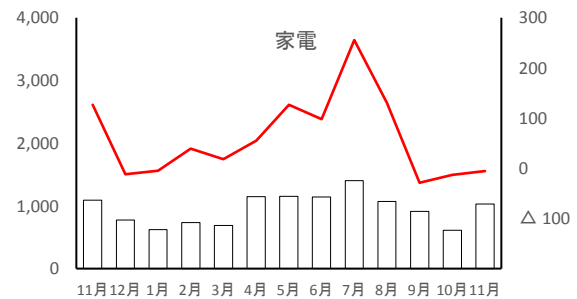
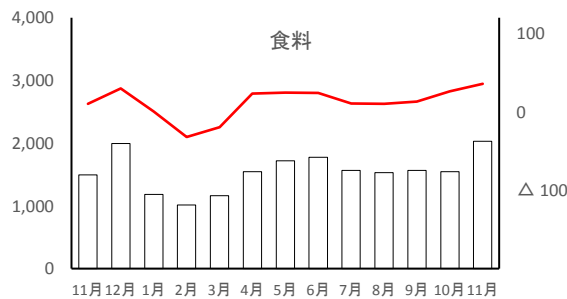
インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出（11月）

インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出総額は12,571円で、前年同月比12.1%の減少となり、2か月ぶりに前年を下回った。

品目別にみると、食料は2,029円で前年同月比35.7%の増加、家電は1,031円で同5.7%の減少、衣類・履物は1,702円で同2.2%の増加、旅行関係費が1,148円で同77.8%の減少となった。



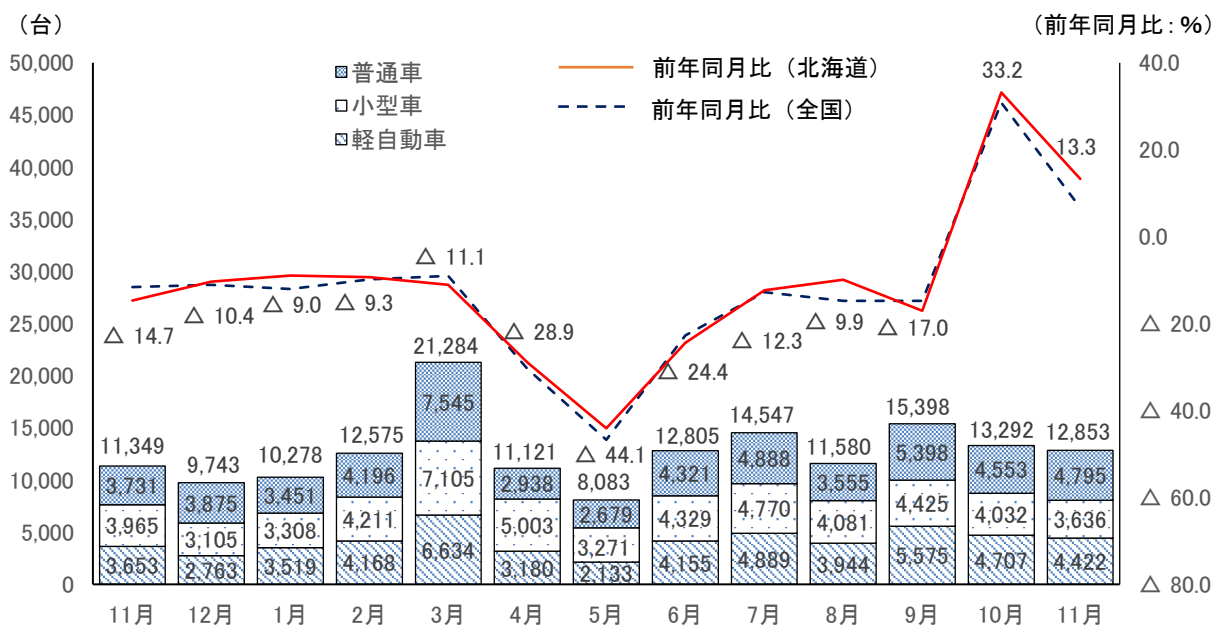
■品目別支出額（右軸：前年同月比%）



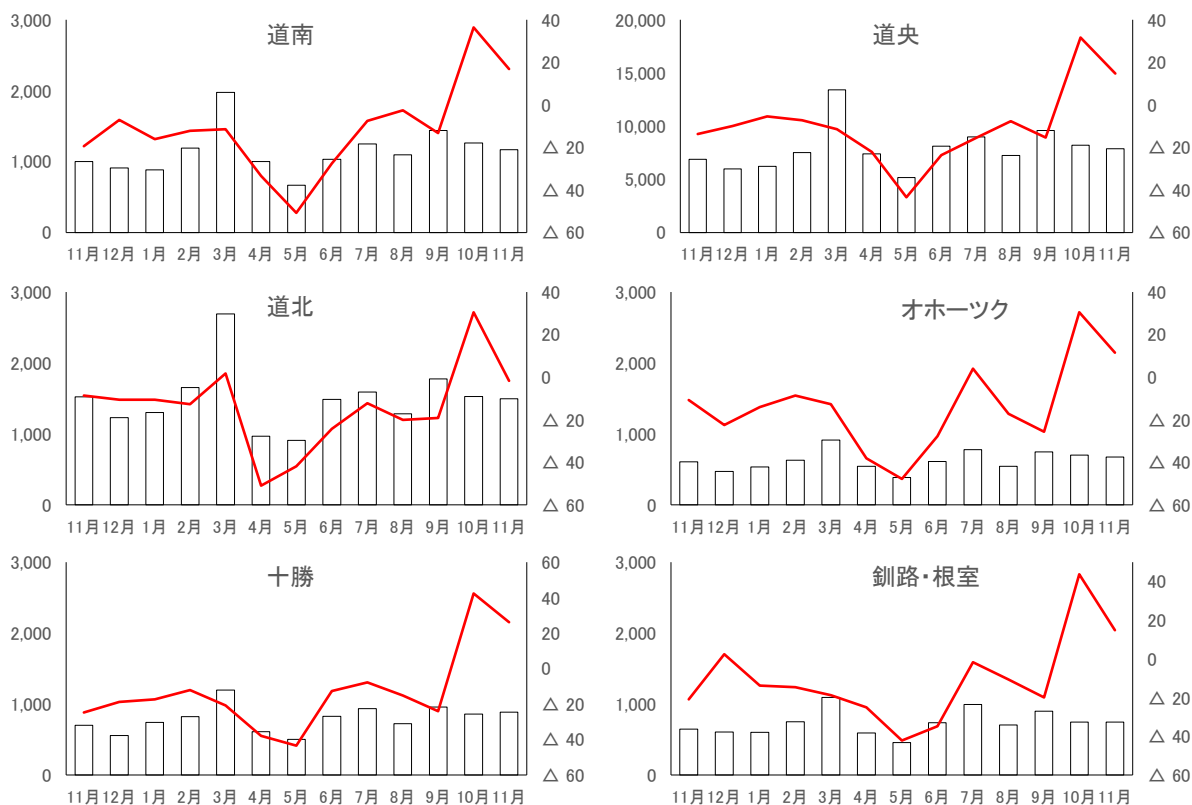
(資料:総務省)

新車登録台数（11月）

新車登録台数は、12,853台で前年同月比13.3%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。
 車種別にみると、普通車は、4,795台で前年同月比28.5%の増加、小型車は、3,636台で同8.3%の減少、軽自動車は、4,422台で同21.1%の増加となった。



■各圏域の新車登録台数（右軸：前年同月比%）



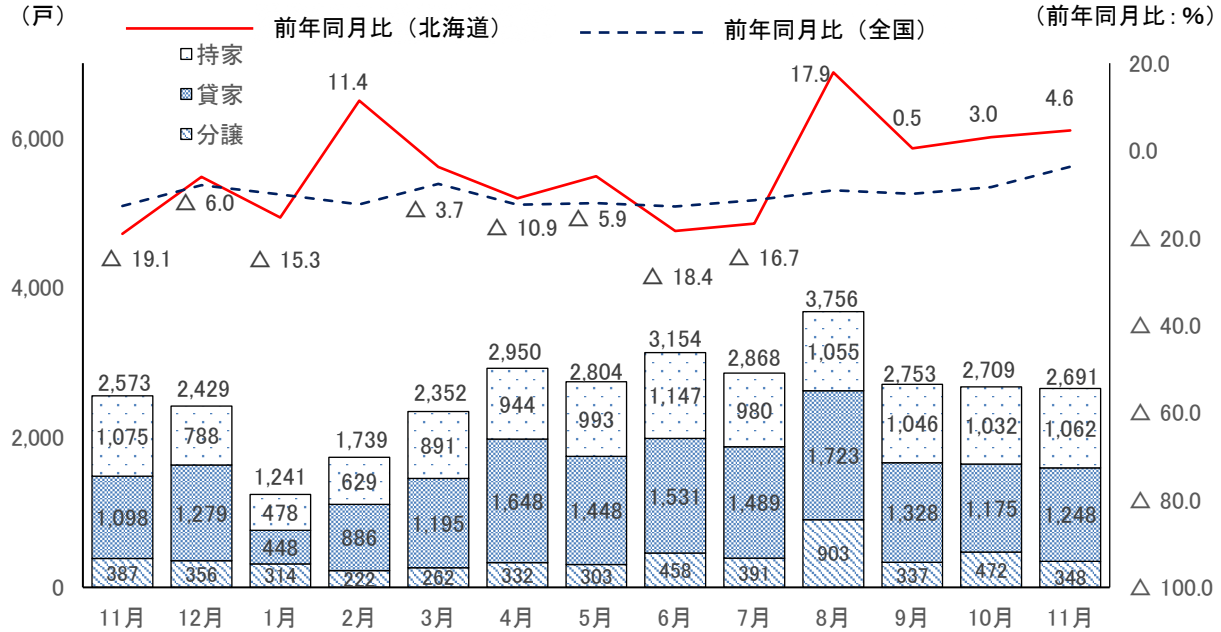
(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

■住宅建設～下げ止まりの兆しがみられる

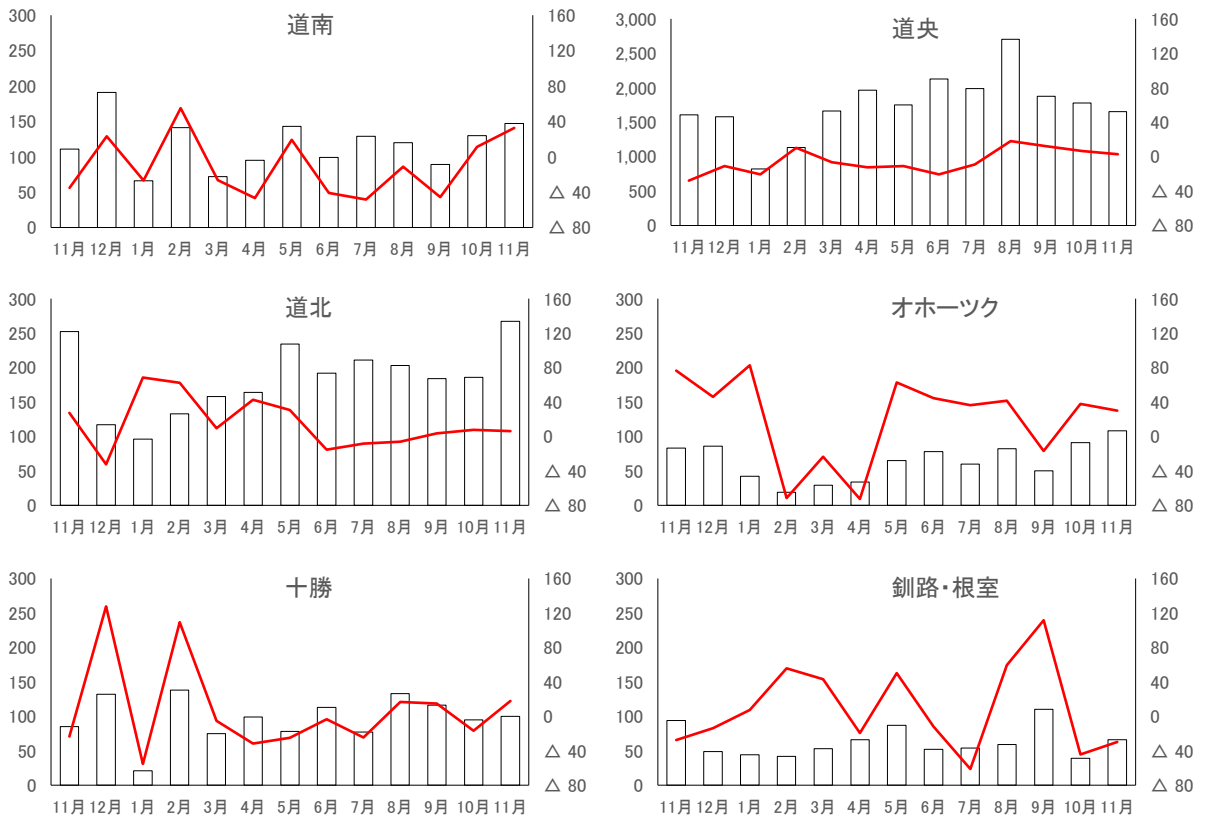
新設住宅着工戸数（11月）

住宅着工戸数は、2,691戸で前年同月比4.6%の増加となり、4か月連続で前年を上回った。

利用関係別にみると、持家は、1,062戸で同1.2%の減少、貸家は、1,248戸で同13.7%の増加、分譲住宅は348戸で同10.1%の減少となった。



■各圏域の新設住宅着工戸数（右軸：前年同月比%）

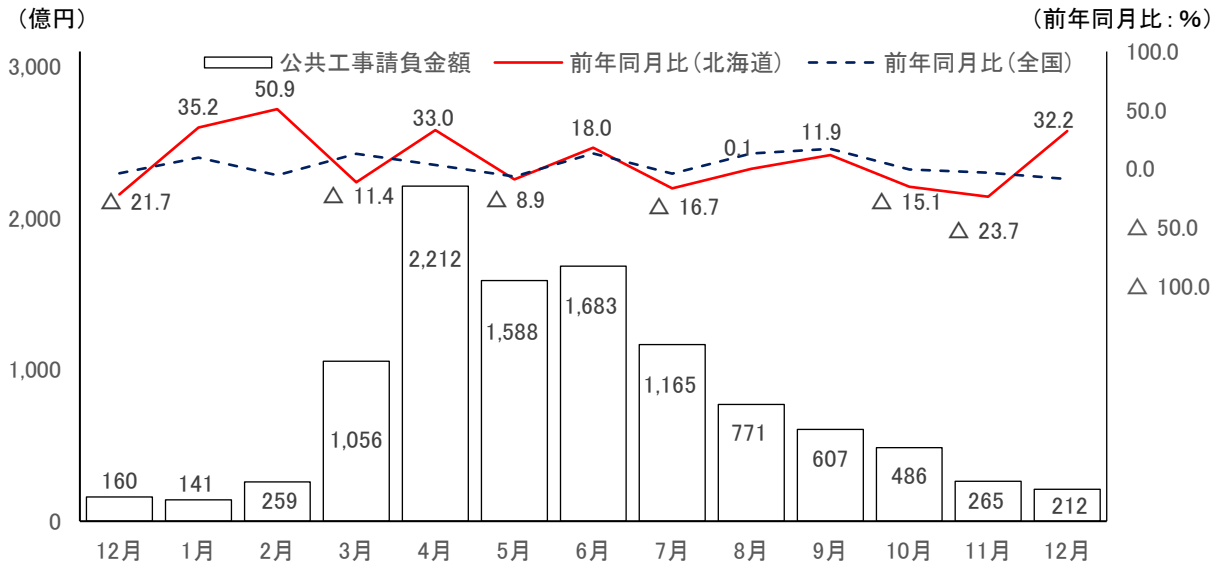


(資料: 国土交通省)

■公共工事～増加している

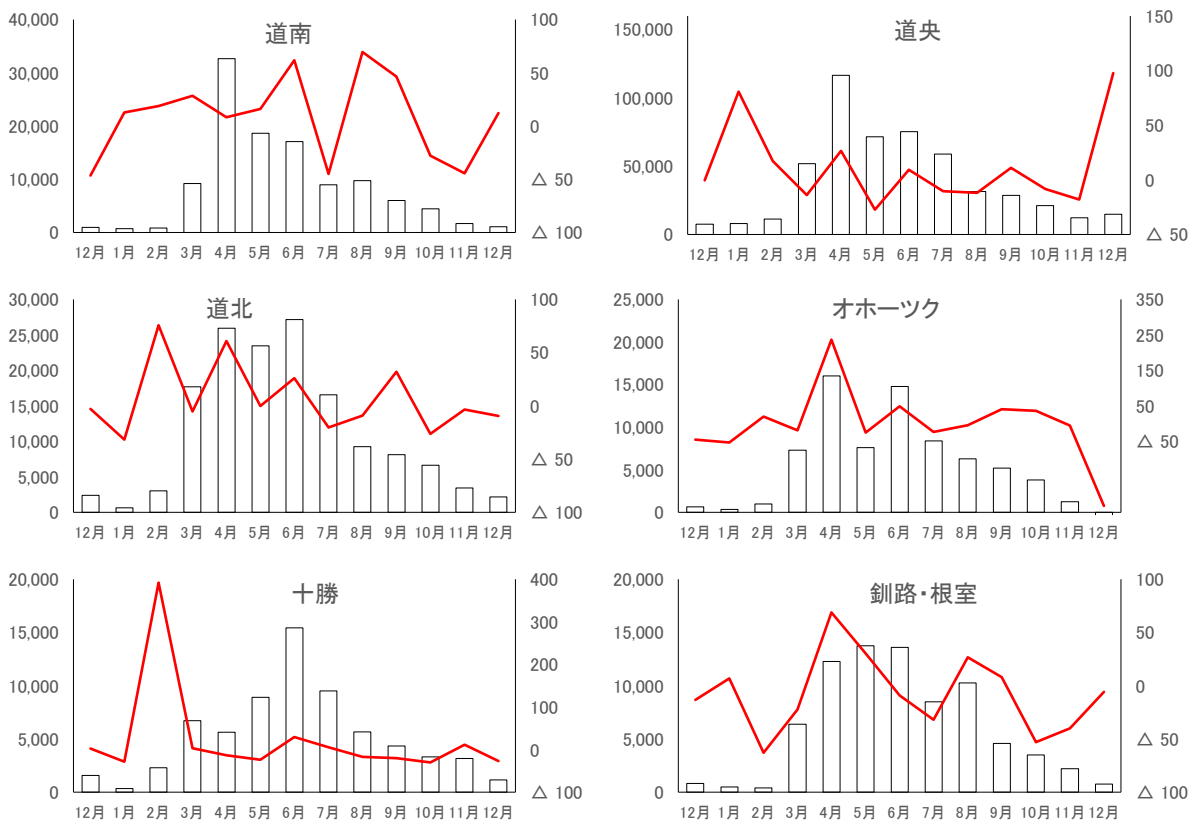
公共工事請負金額（12月）

請負金額は、212億円で前年同月比32.2%の増加となり、3か月ぶりに前年を上回った。



(資料:北海道建設業信用保証(株))

■各圏域の公共工事請負金額（左軸：百万円、右軸：前年同月比%）

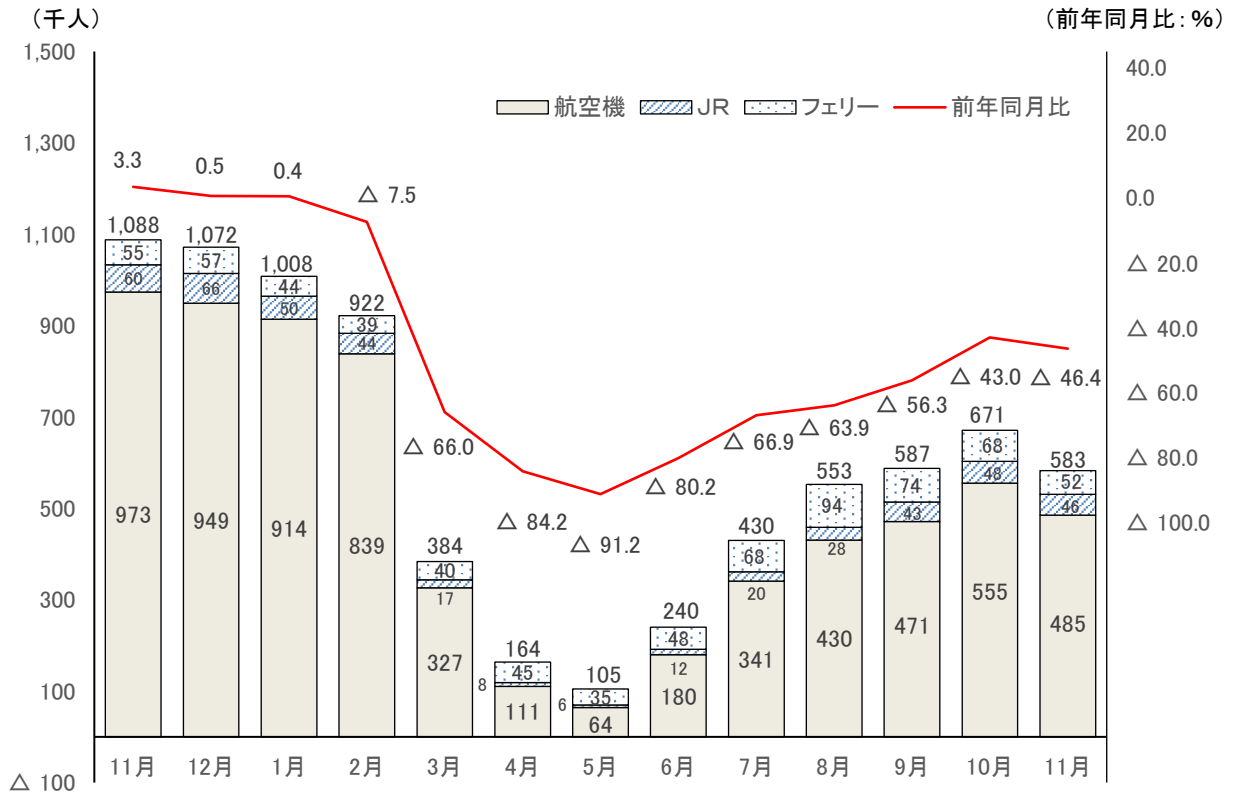


(資料:北海道建設業信用保証(株))

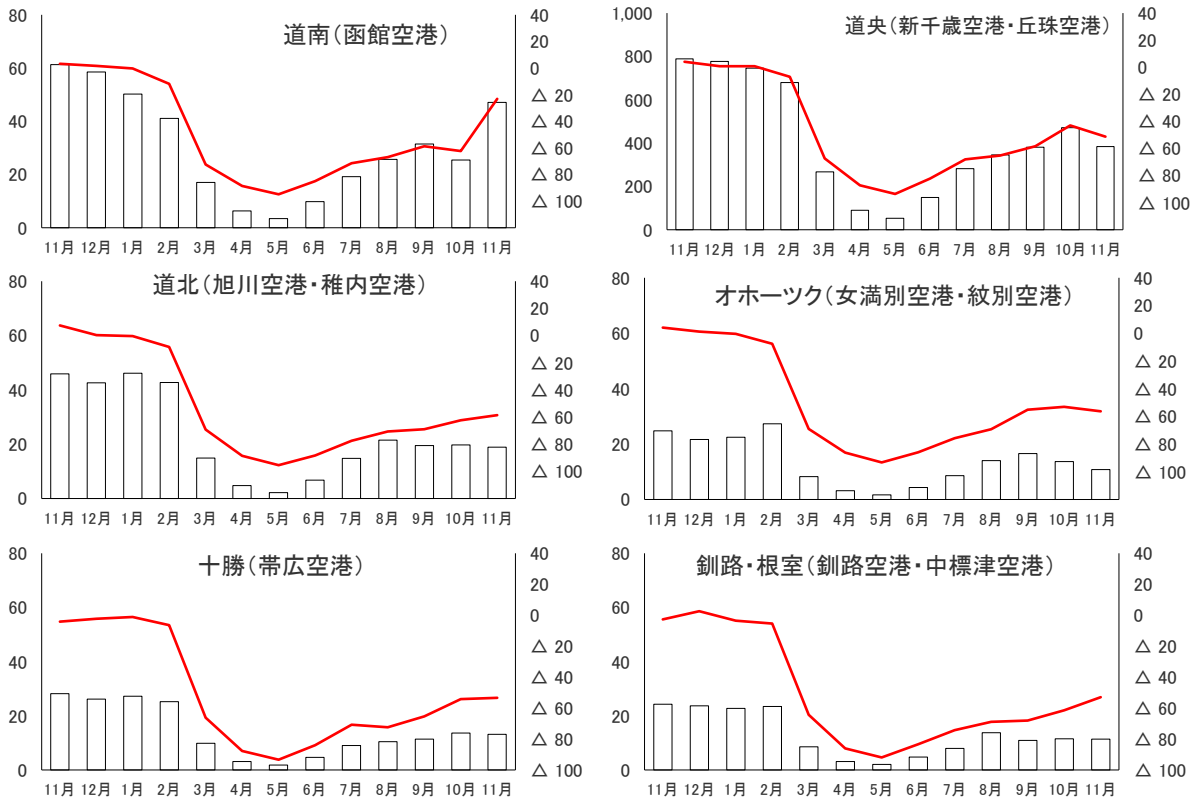
■観光～弱い動きが広がっている

来道者数（11月）

来道者数は、58.3万人で前年同月比46.4%の減少となり、10か月連続で前年を下回った。



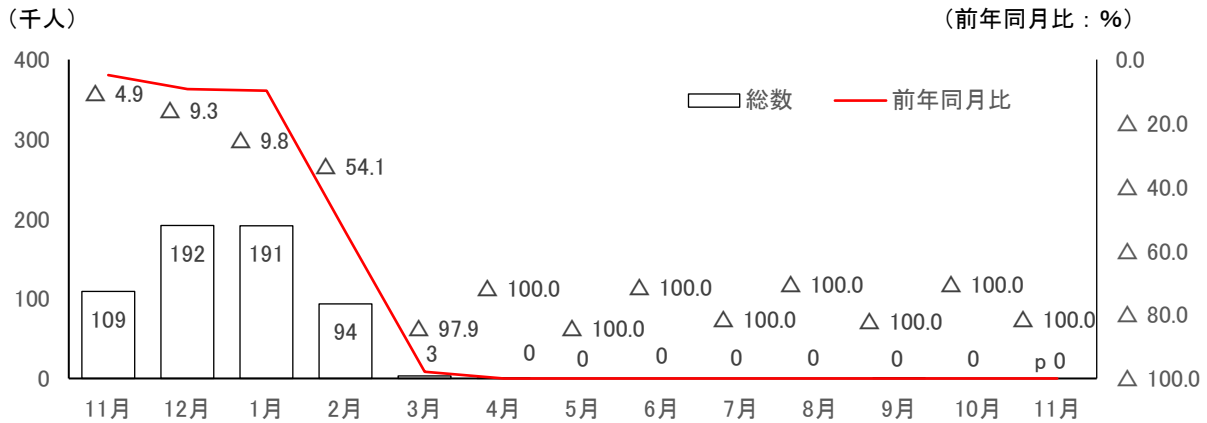
■各圏域の航空機利用による来道者数（左軸：千人、右軸：前年同月比%）



(資料：(公社)北海道観光振興機構)

来道外国人数（11月）

本道に直接入国した外国人は、0人で前年同月比 100.0%の減少となり、14 か月連続で前年を下回った。

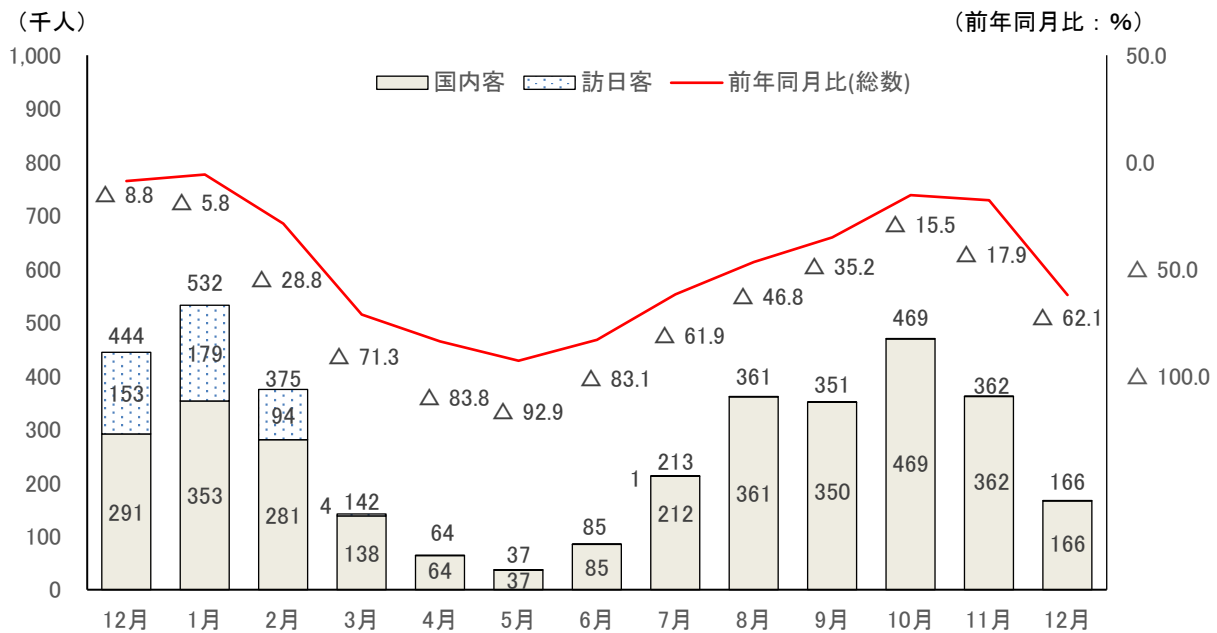


* 「p」は速報値 (資料:法務省入国管理局)

宿泊者数（12月）

日本旅館協会加盟施設の宿泊者数は、166,374人で前年同月比 62.1%の減少となり、14 か月連続で前年を下回った。

このうち、国内客は 166,178 人で同 42.0%の減少、訪日客は 196 人で同 99.9%の減少となった。

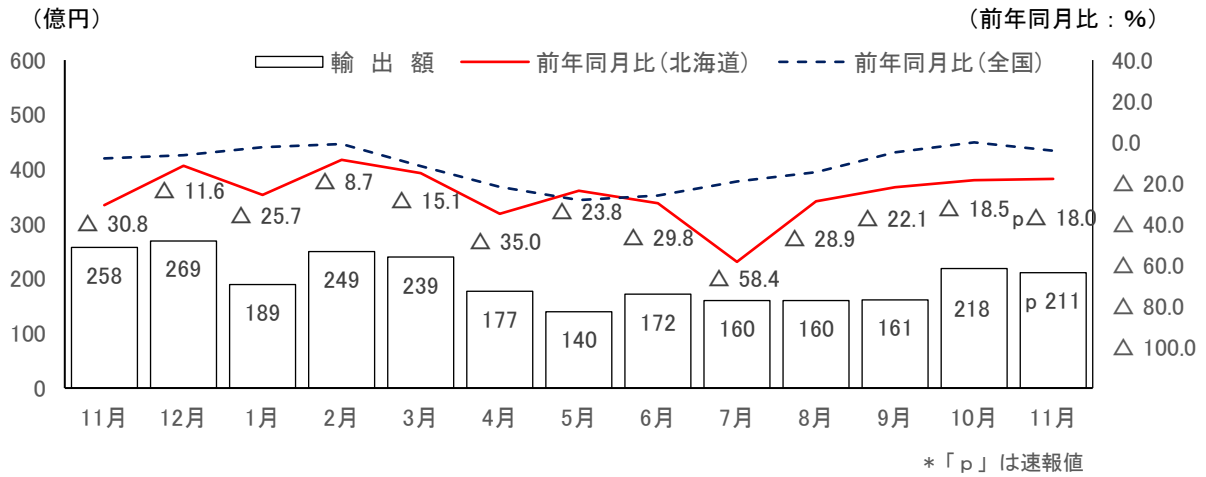


(資料:日本旅館協会北海道支部連合会)

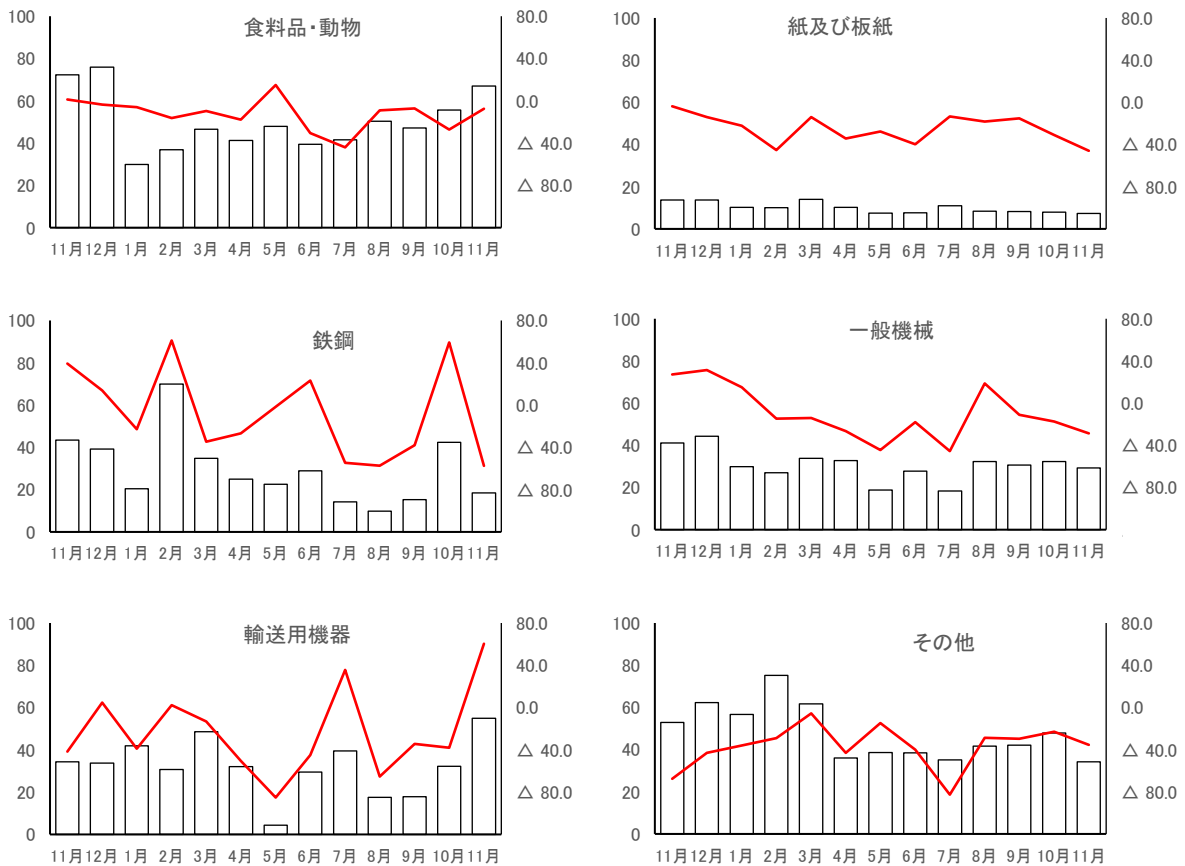
■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を下回った

輸出額（11月）

輸出額は、211億円で前年同月比18.0%の減少となり、16か月連続で前年を下回った。品目別にみると、輸送用機器などが増加したものの、鉄鋼、一般機械などが減少した。



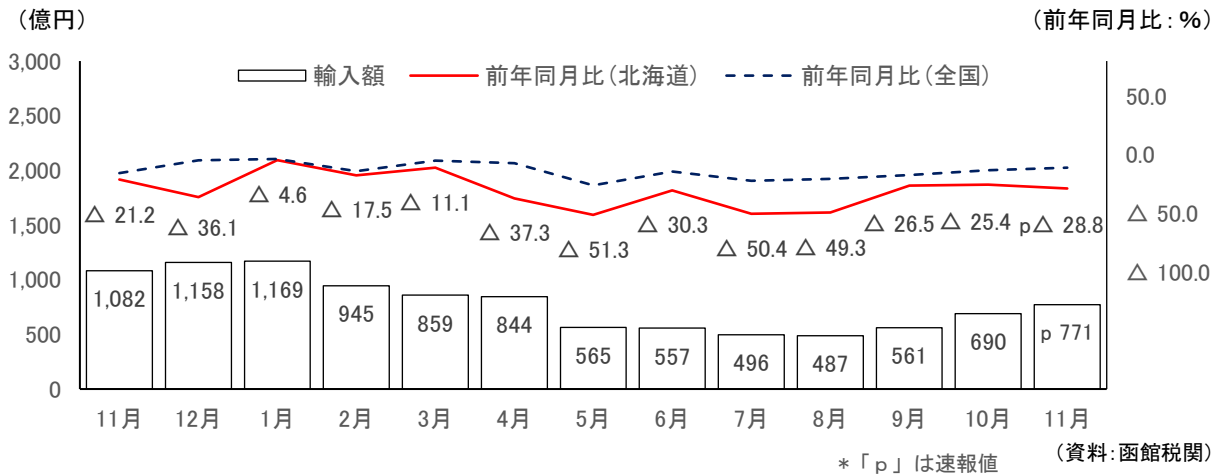
■種類別の輸出額 (右軸：前年同月比%)



(資料：函館税関)

輸入額（11月）

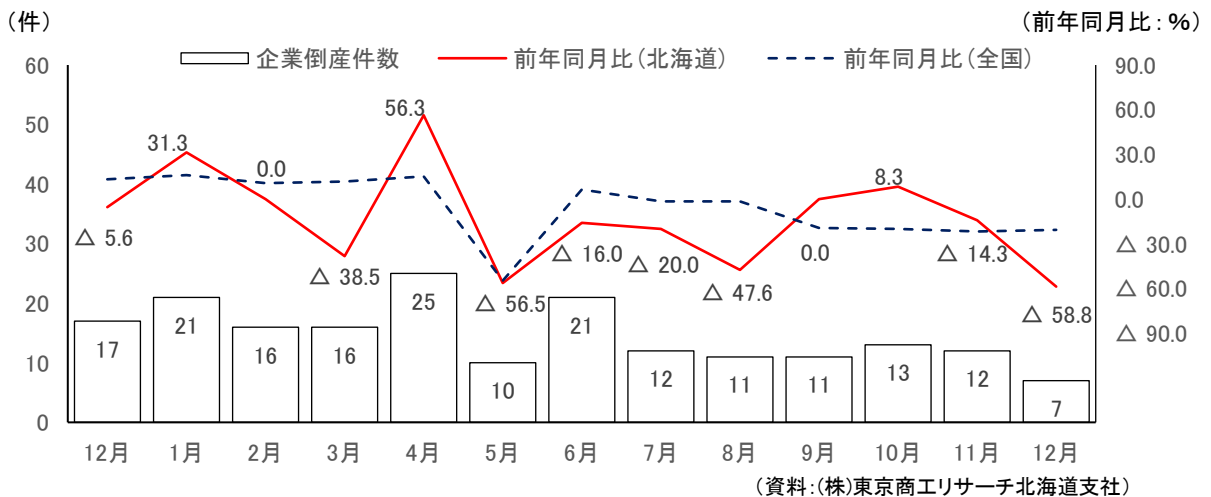
輸入額は、771億円で同28.8%の減少となり、19か月連続で前年を下回った。
品目別にみると、原油・粗油、石炭などが減少した。



■企業倒産～倒産件数、負債総額ともに減少した

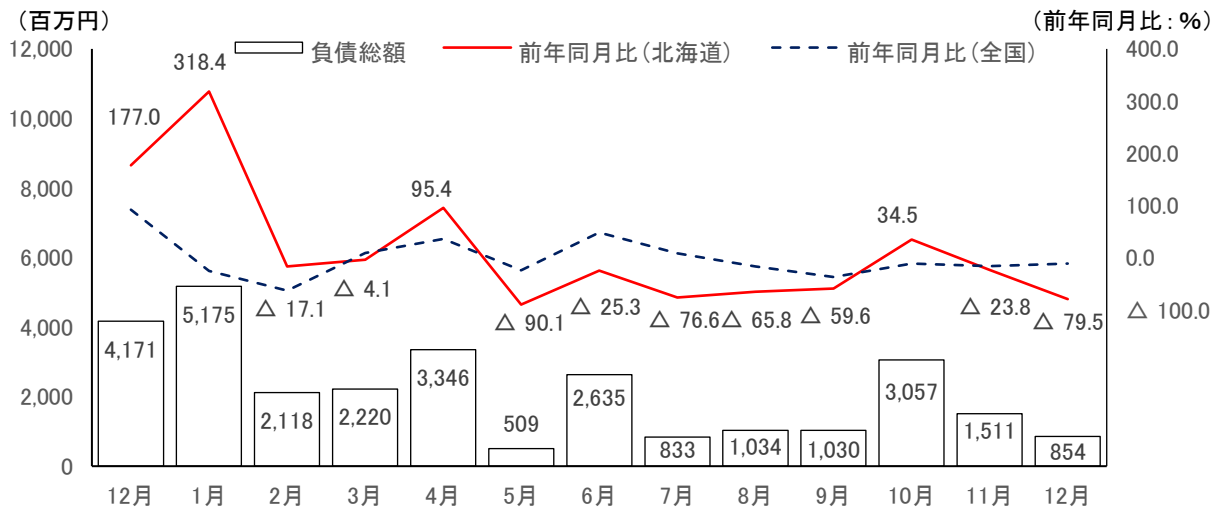
倒産件数（12月）

企業倒産件数は7件、前年同月比で10件の減少となった。
原因別でみると、販売不振が6件（構成比85.7%）と半数以上を占めた。
業種別でみると、卸売業、運輸業、サービス・他各2件（各構成比28.6%）となった。

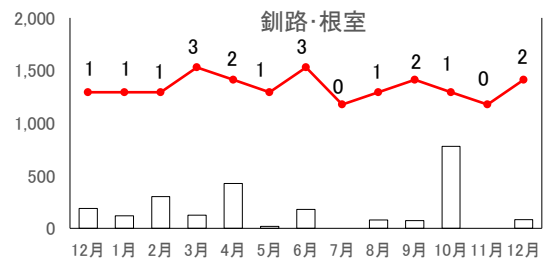
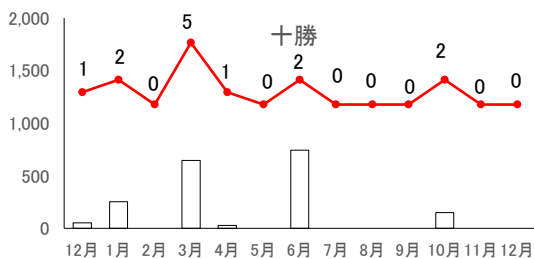
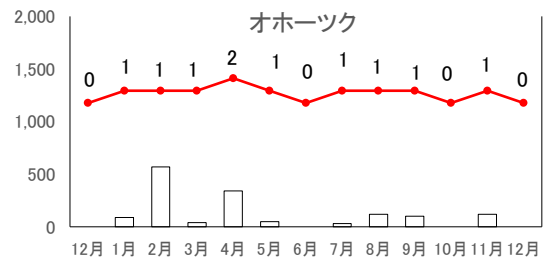
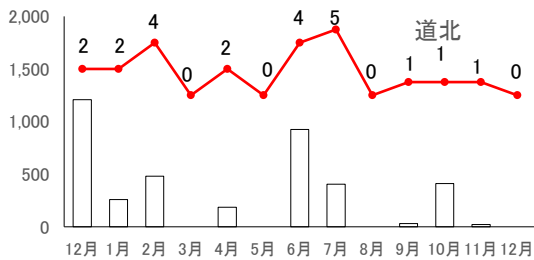
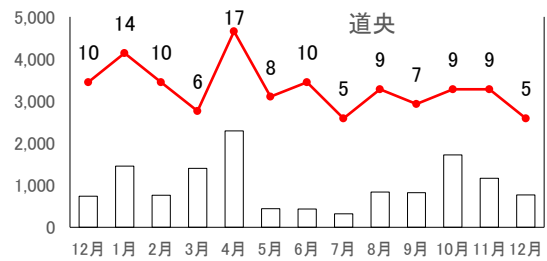
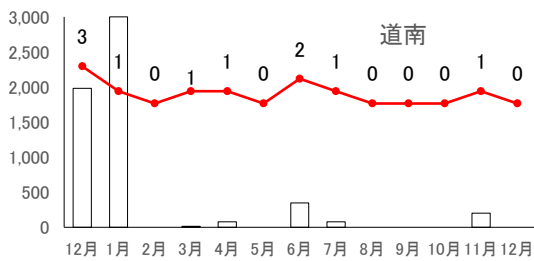


負債総額（12月）

負債総額は、8億54百万で同79.5%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。



■各圏域の負債総額と倒産件数（折れ線）



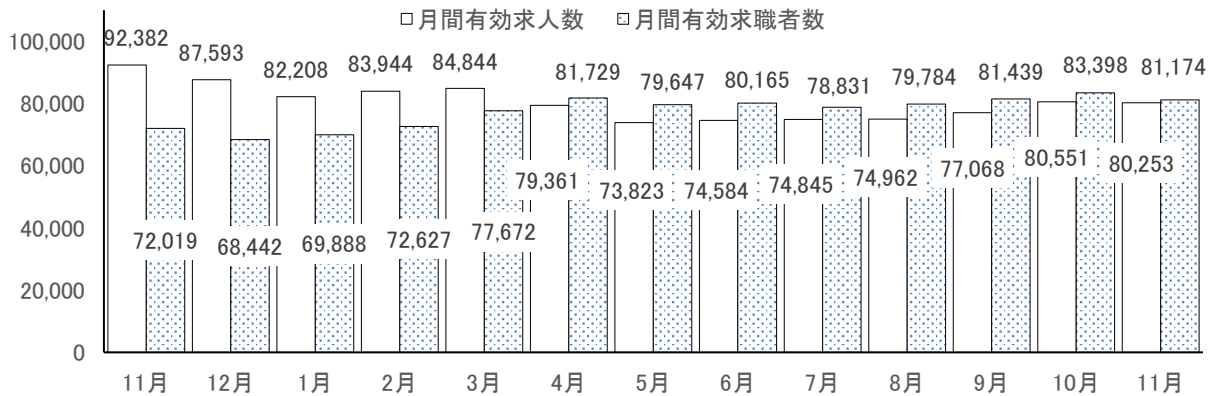
(資料):(株)東京商工リサーチ北海道支社)

■求人・求職～さらに弱い動きが広がっている

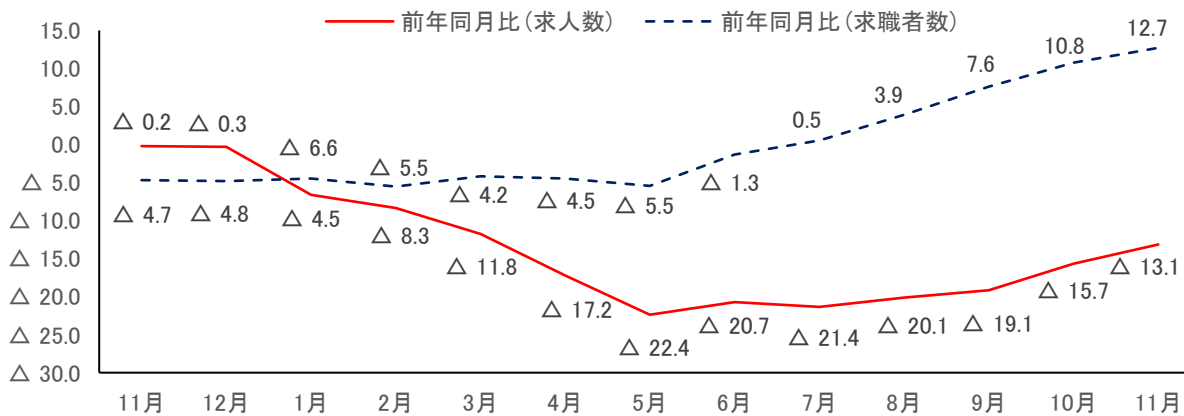
月間有効求人数・求職者数（11月）

月間有効求人数は、8万253人で前年同月比13.1%の減少となり、13か月連続で前年を下回った。月間有効求職者数は、8万1,174人で同12.7%の増加となり、5か月連続で前年を上回った。

(人)



(前年同月比：%)



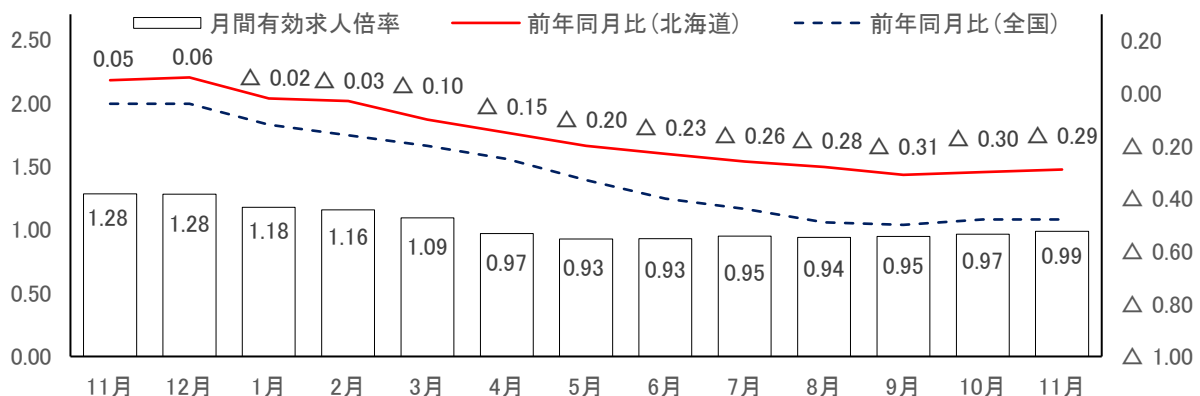
(資料：北海道労働局)

月間有効求人倍率（11月）

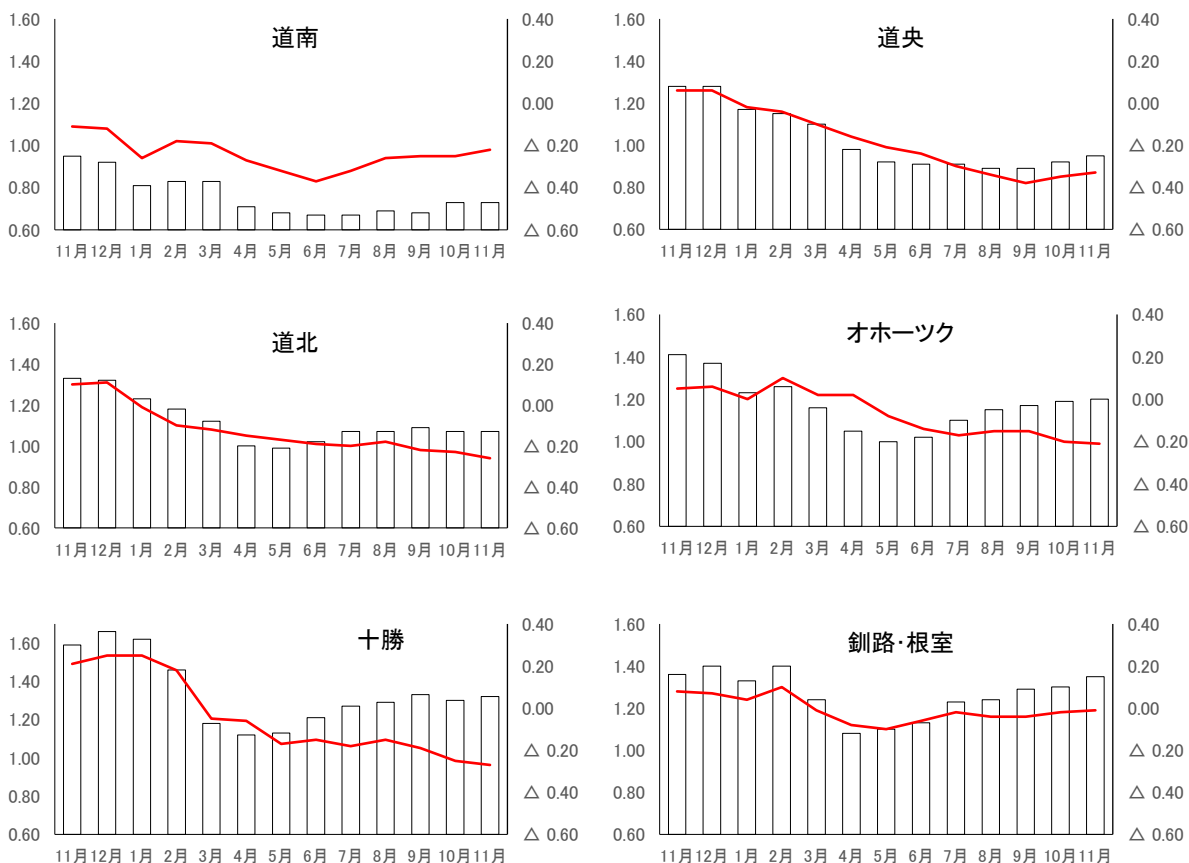
有効求人倍率は0.99倍で、前年同月差で0.29ポイントの減少となり、11か月連続で前年を下回った。

(倍)

(前年同月差：ポイント)



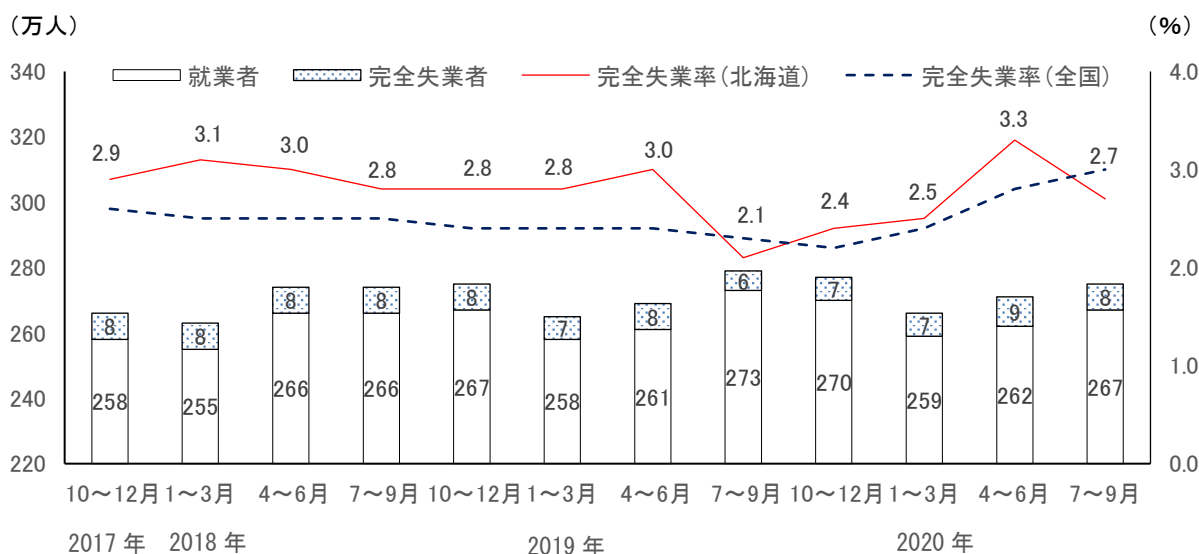
■各圏域の月間有効求人倍率（右軸は前年同月差）



(資料:北海道労働局)

完全失業者数、完全失業率（令和2年7～9月）

完全失業者数は、前年同期と比べ、2万人増加している。
完全失業率は、2.7%で前年同期と比べ、0.6ポイント上昇となっている。

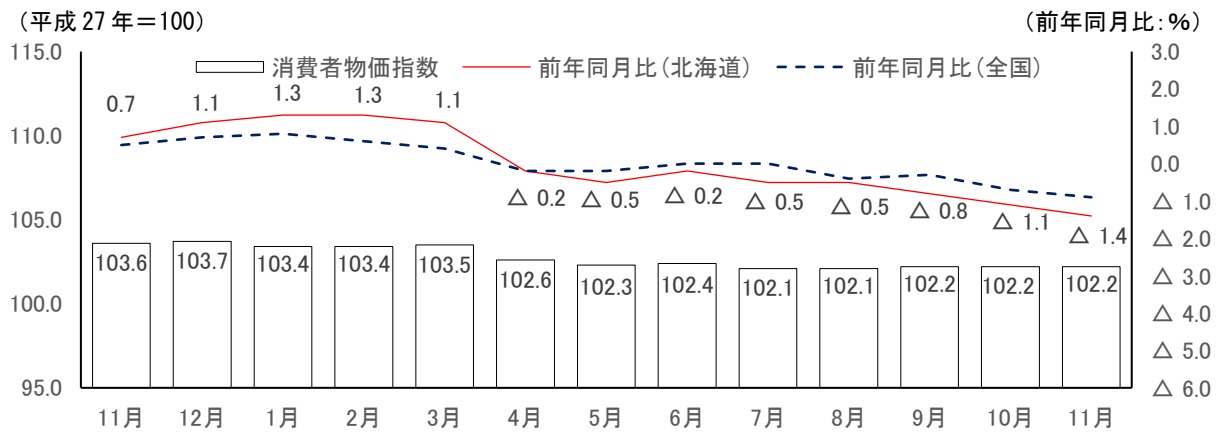


(資料:総務省)

■物価～消費者物価指数は前年を下回った

消費者物価指数（11月）

消費者物価指数（生鮮食品を除く）は、102.2で前年同月比1.4%の下降となり、8か月連続で前年を下回った。



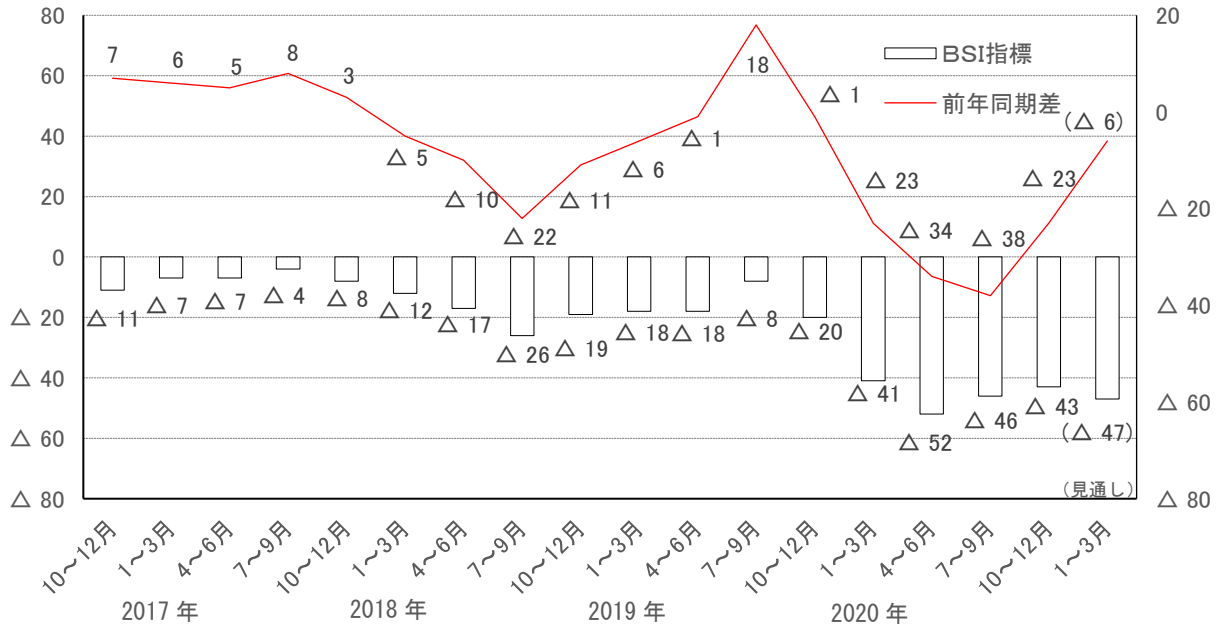
(資料:総務省)

■企業経営者意識調査～前期から上昇している

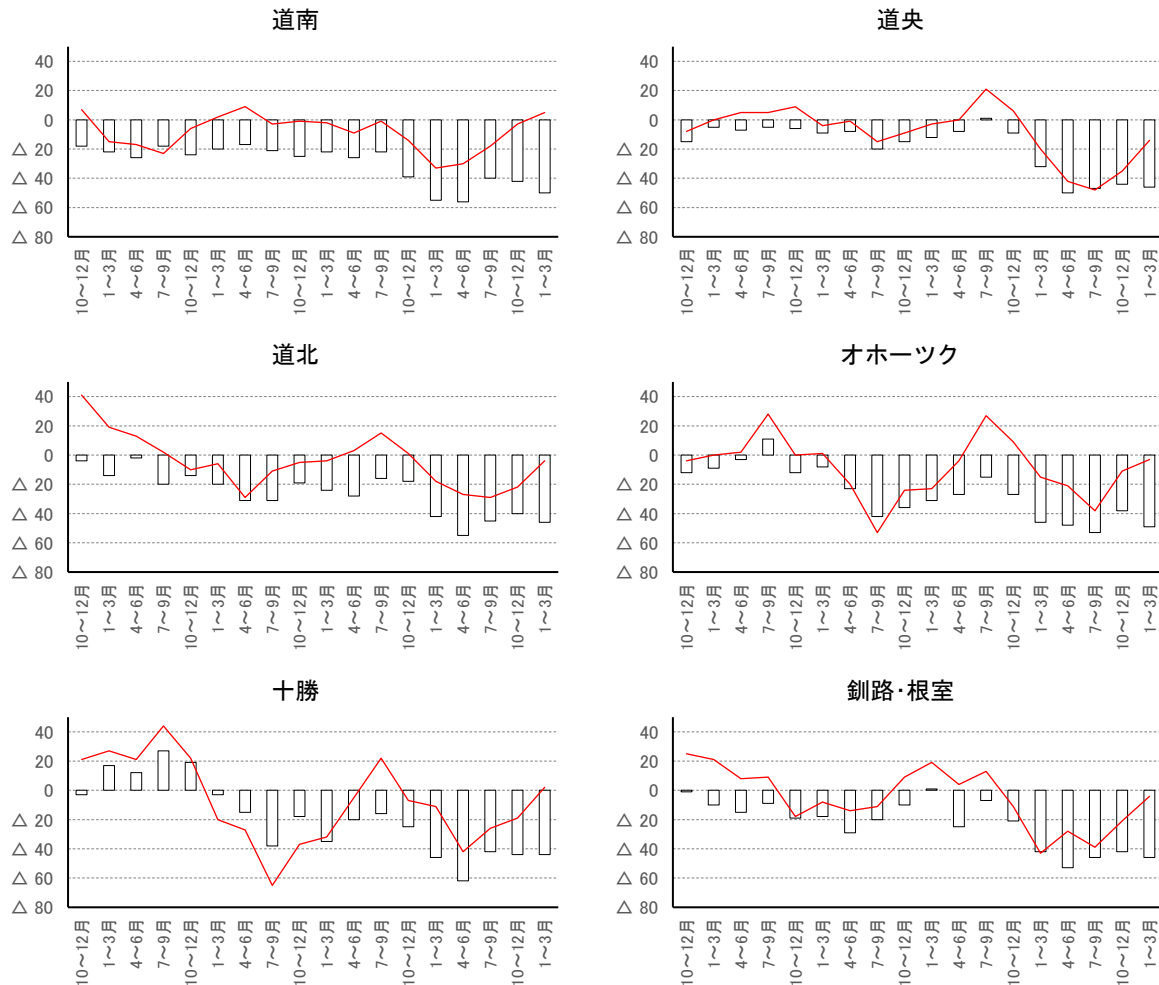
令和2年10～12月期の業況感BSIは△43ポイントで、前期から3ポイント上昇しており、前年同期より23ポイント下降している。来期見通しは△47ポイントで、今期から4ポイント下降の見通しとなっている。

(BSIポイント)

(前年同期差：ポイント)



■各圏域の業況感BSI (折れ線グラフは前年同期差)



(北海道経済部調べ)

■企業のみなさまから伺いました

◆百貨店（道央地域）

【お歳暮やおせちの予約はネット予約が大幅な伸び】

11月は、緊急事態宣言の影響で厳しい状況が続いたが、12月に入り若干落ち着いたムードとなった。12月は目的があって入店されるお客様が多く、お買い上げ率は高かった。おせちの売上は昨年を若干上回っており、ネットでの予約が大きく伸びており、外出できない分、豪華なものをということなのだろうと考えている。お歳暮も、ネットでの予約が大幅に増加し、自宅や実家へ送る方が多かったようだ。

【来客分散の取組で、初売りの売上は例年より半減】

初売りは、人気のある食品福袋については全てネット予約、それ以外の商材も事前の予約や年内の先渡しなど、密にならないように取組を行った結果、来客が分散され、初売りの売上は例年の5割ほどとなった。衣類については相変わらず苦戦しているが、特選ブティック品や、リビング用品については、引き続き高めのトレンドを維持している。

◆スーパー（道央地域）

【帰省が少なめで都市部が好調】

12月も来店客数は少なめだったものの、外食を控え自宅で食事をするため売上は好調に推移した。昨年よりもイベント時の手づくり傾向が増しており、材料となる商品が好調だったことに加えて、クリスマスは鶏レッグ、ローストビーフ、寿司、ピザ、ケーキなど、年末はカニ、刺身、牛肉が好調だった。

感染症再拡大の影響で、年末の帰省が少なめだったためか、都市部（札幌）では年末のごちそうに限らず、通常品の売上も伸びた。また、北海道に帰省できない人に送るために、北海道産の生鮮品ギフトが伸びた。

◆コンビニエンスストア（道央地域）

【住宅地の日中の売上が増加】

12月は平年より気温が低く推移したことや、不要不急の外出自粛が要請されていることもあり、家で過ごすための消費が好調に推移した。繁華街やオフィス街の客足は悪く、夜間から深夜の販売は大きく減少し、観光地も一転して減少したものの、住宅地の日中の販売が売上増加に大きく寄与した。クリスマス関連商品や年末のおせち予約が好調だったほか、家で調理して食べる食品や調味料、アルコール類が好調だった。

最近の経済動向

令和3年1月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>